

畑地園芸を担うダイコン経営体の育成と産地活性化

県南農林事務所稲敷地域農業改良普及センター

牛久市のダイコン（JA水郷つくば大根生産部会）は、「牛久河童だいこん」として知られています。大根生産部会では、一層の生産拡大を進めるため、平成24年度から共同洗浄・選別施設を段階的に導入し、ダイコンの生産・出荷に係る労働時間を大幅に短縮できる環境を整備しました。一方で、部会の高齢化が進んでおり、組織の活性化と部会をけん引するトップランナーの育成が課題となっていました。そこで、普及センターでは、儲かる経営体の育成と産地の維持・拡大に取り組みました。

部会をけん引するトップランナーの育成

部会をけん引するトップランナーを育成するため、特に規模拡大に意欲的な農家2戸を重点対象として経営面・技術面での個別指導を実施しました。1経営体で法人化するほか、両経営体とも事業を活用し、マルチ同時播種機や収穫機を導入する等、一層の効率化を進めるとともに、春ダイコンの密植栽培等の新技術を積極的に導入した結果、所得は前年比で18～20%向上しています。



写真1
収穫機による収穫の様子

表1 トップランナー候補者の取り組み内容

| 対象 | R2取り組み内容 | 経営効果 (前年比) |
|------|-------------------------|---------------|
| A経営体 | 密植栽培の導入、栽培面積の拡大、反収の向上等 | 所得18%向上 |
| B経営体 | 新品種の導入、栽培面積の拡大、適期収穫の実施等 | 所得20%向上 |



写真2
現地検討会の様子



写真3
講習会の様子

次の時代を担う新規若手部会員の育成

牛久市や農協と連携し、牛久市の研修機関（うしくグリーンファーム株式会社）で研修を修了した新規就農者に対して、組織活性化のため、大根生産部会に誘導するとともに、継続的に個別指導を実施するほか、講習会や現地研修会で技術指導や青年等就農計画の作成等の経営支援を行いました。この結果、新規就農者3名が新たに部会に加わり、次の時代を担う部会の中核メンバーとして期待されています。

産地の維持・拡大

普及センターではダイコンの収量向上による経営の安定を目指し、部会と連携して各作型の優良品種の選定を継続的に実施するとともに新技術や堆肥施用による土づくりの啓発を行っています。令和2年度の部会員は6名増加し34名に、栽培面積は6.5ha増加して52.5haとなり、出荷量・販売金額とも過去最高となりました。



写真4 JA水郷つくば大根生産部会の皆さん